

# 次世代自動車等の開発加速化に係るシミュレーション 基盤構築事業

平成30年度予算額 **8.0億円（新規）**

## 事業の内容

### 事業目的・概要

- 環境・エネルギー制約への対応の観点から、我が国CO<sub>2</sub>排出量の約2割を占める運輸部門において、次世代自動車や自動走行の普及による省エネへの期待が高まっています。
- これらの実現のために、自動車の開発コストが爆発的に増加しているため、開発の上流工程の徹底的な効率化(開発・性能評価のプロセスを実機を用いずにシミュレーションするモデルベース開発(MBD))を行う重要性が拡大していますが、MBDには一部大手の自動車メーカーやサプライヤーが対応している程度で、サプライチェーン一体となったシミュレーション開発の浸透が課題となっています。
- このため、本事業では、実機を使用せずに車両全体をシミュレーションで評価できるよう、車両評価性能モデルを構築し、我が国の開発プロセス(すりあわせ)の高度化を促します。
- また、大学や高専等といった学の知見を活用し、産学における最先端のモデル開発の体制を構築・人材育成を行います。

### 成果目標

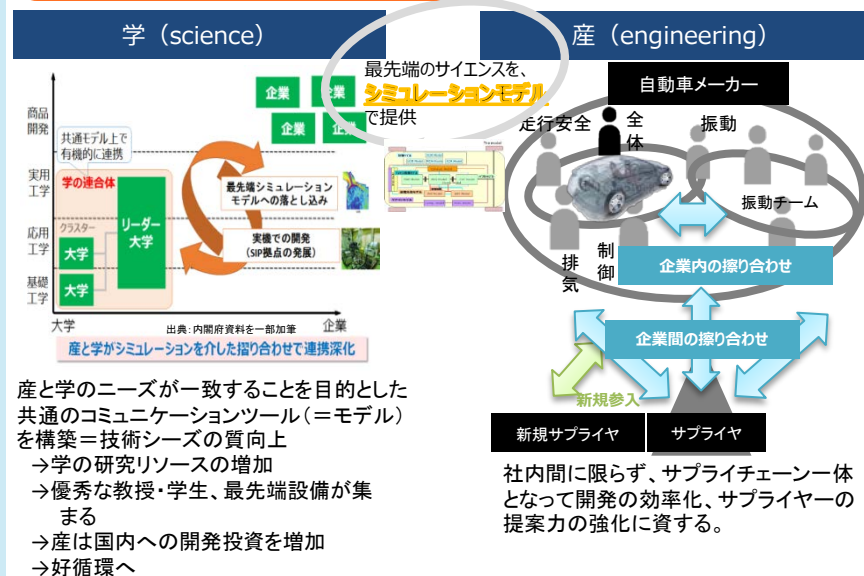
- 平成30年度から平成32年度までの3年間の事業であり、「未来投資戦略2017」における、2030年(平成42年)までに新車販売に占める次世代自動車の割合を5~7割とする目標の実現に向け、次世代自動車の開発を加速化する基盤を構築します。

### 条件(対象者、対象行為、補助率等)



## 事業イメージ

### (1) すりあわせイメージ



社内間に限らず、サプライチェーン一体となって開発の効率化、サプライヤーの提案力の強化に資する。

### (2) モデル構築

